



継続は力なり ～ 巴波川にほたるを甦らせよう ～

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

中小児童の夢、「巴波川にほたるを甦らせよう」を実現するために発足した「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」は、自治会を中心とした地域、中小学校、PTA、中公民館をはじめ、多くの皆様の協力を得て活動して来ました。中小ビオトープで、ほたるを飛ばし多くの皆様に感動を与えることが出来ました。また、「中小学校から巴波川へ」のスローガンのもと

①巴波川へ中小児童と共にほたるの餌のカワニナの放流と清掃

②自治会主催による巴波川の清掃

このような中地区を挙げての活動を続けることで、多方面から大きな評価を受けております。対外的活動としまして以下のとおり参加致しました。

①全国「田んぼの学校」フォーラムイン栃木：於 宇都宮大学

②「めだかの学校」総会：於 道の駅思川

にて、ほたるのビオトープを発表する機会を得て、中地区のほたるをアピール致しました。

次に、小山市・藤岡町による「田園空間整備事業」の一員として会を代表して参加致しました。

この様に、ほたるを通した活動を続けることにより ①巴波川の環境浄化 ②地域協力の輪を広げる ③中小児童の健全育成を図って行きたいと思っております。今後共、皆様のご協力をお願い致します。

巴波川にほたるを甦らせよう

～カワニナ放流・川の清掃～

大出清成

一時汚染がひどかった巴波川も、次第に以前の清らかさを取り戻しつつある。そこで、ホタルを再び甦らせようと先ずホタルの餌となるカワニナを生息させることを第一のステップとして取り組むことになり、毎年継続して実施している。今年も1月16日蛍橋上流約100m地点で中小児童とともに、川の清掃とあわせてカワニナの放流を行った。

実現の道のりは遠いかもしれないが一つの目標に向かってみんなで努力することは素晴らしい。



ほたるの石碑

ビオトープ前を通るときれいなほたるの石碑が際立って目に写ります。

御影石でほたるの姿が描かれ「ほたるのビオトープ」と刻まれています。

平成13年度に「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」が発足したことを記念として、今年の3月24日に建立したものです。

本会発足当時の羽金勝子校長先生からの基金をもとに建立しました。本会の事業のシンボルとして、これからも中小学校に永く残されていくことになります。



ほたる飼育見学記

— ほたるが棲みやすい環境づくり —



＝所沢文化第三幼稚園＝

新井幸男 ・ 熊倉忠雄

田波耕太郎 ・ 青木誠

去る10月14日（土）、ほたるの先進地視察へ行ってきました。所沢第三文化幼稚園です。理事長の梅沢定彦さんは、ほたるの飼育の実践と理論を兼ね備えた著名な方で園児の情操育成の手段として、ほたるの飼育と共に保護者や地元の人に鑑賞会を毎年開催しています。

早速ビオトープ見学…。周りは森林に囲まれた自然豊かな小高い丘陵にあります。ここに深い井戸を掘り汲み上げた水を大きな濾過水槽<写真1>を通して水を馴染ませ、そこが100mほどの長いビオトープの水源となっています。小高い段差を利用して途中に3箇所、高さ1mほどの滝<写真2>があります。



<写真2>

酸素を取り入れる滝

これは景観のほか滝のしぶきが空気中の酸素を取り入れ、幼虫の棲みやすい水流にするためです。

下流には、絶滅の危機にあるミヤコタナゴの生息池もつくられていました。

次に、幼虫飼育の様子を見学しました。部屋の中には西側と東側に各10個ほどの飼育水槽が設置されていました。これらはほたるの飼育と餌となるカワニナの飼育用水槽の2種類です。水槽には白い小石が高さ半分ほど敷き詰められ酸素の泡が小石の下から吹き出ていました。中には、ゲンジの幼虫が約5千匹・ヘイケの幼虫が約2万匹もいるそうです。

「残念ながらこの付近はほたるの棲む環境はありません。如何に「地下水」「水槽」で幼虫が棲めるような自然に近い状態にするかが飼育の課題です。」

ほたるの飼育は大変難しく中地区でも飼育班の皆さんは苦勞と工夫をしている所ですが、当園の管理が今後の参考になりました。

幼虫をたくさんお土産にいただき幼稚園をおいとしました。



<写真1> 大きな水槽

願いをこめて… ～ 幼虫放流式 ～

幼虫の放流式が2月14日に行われました。会員児童・PTAの皆さんが願いを込め水槽で育てた幼虫約700匹がこれからビオトープの中で育ちます。「ほたるを観る会」での飛交う光のページントが楽しみです。
中小学校児童の皆さんの思いを紹介します。

- 4年 私はホタルをほうりゅうする時「早く大きくなってね。」とお願いしました。
- 5年 よう虫たちきれいな光をだすためにがんばれ！
ぼくたちみんなが楽しみに待っています。
- 6年 私達が一生懸命に育ててきた幼虫を放流しました。
今年も去年よりたくさんのホタルが飛んでほしいです。



臨時ニュース 早い！ もう ほたるが！

5月21日午後8時、草むらにはほたるの光の点滅を5個ほど確認しました。 早い！ 冬が温暖だったからか？ ほたるの寿命はほぼ3日～1週間、『ほたる観る会』まで光り続けてほしい。

本会の活動県下に発信！

私達の本会での取り組みの成果が認められています。昨年は「田んぼの学校」フォーラムイン栃木で森田会長が宇都宮大学と小山道の駅で活動の様子を発表しその活動状況が高い評価を得ました。下野新聞『あなたも特派員』欄に下記の記事が掲載されました。
原文のままお知らせいたします。



ホタル運動の会と小山・中小児童

ほたるの名所として有名だった巴波川のホタルの再生を願って活動している『ほたる飛び交う中地区を指す運動の会』と中小児童は、同校の「ホタルビオトープ」にゲンジボタルとヘイケボタルの幼虫約七百匹を放流しました。

ほたるの幼虫は去年の産卵から八月間に亘って会員やPTA、児童が

ビオトープに幼虫放流

一生懸命育て上げてきました。今年は巴波川にほたるを取り戻すための新たな試みとして、児童が巴波川の水でヘイケボタルを飼育しました。

巴波川の水でも飼育可能なことが確認され、夢がまた一歩前進しました。読者の皆様、今年六月八日には、ほたる飛び交う中小にぜひお越しください。



『ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会』を支える方々

ほたるを観る会

☆ 6月8日(金)

式典 …14:00～15:00

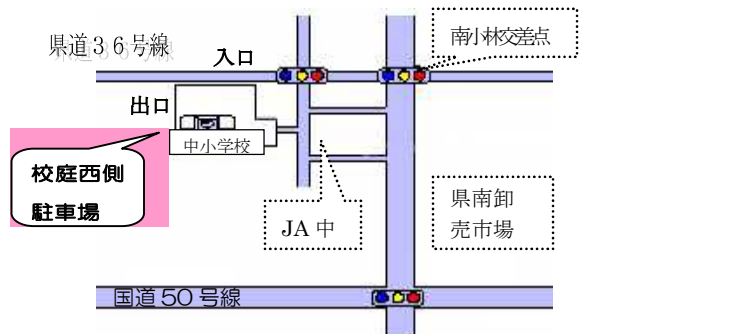
イベント …18:00～19:30

観る会 …19:40～21:00

☆ 6月9日(土)

観る会 …19:30～21:00

ご家族でお誘い合わせて見に来てください。



※ 駐車場は校庭のみとなっています。

校庭駐車される方々へ

入 口 (北側県道から)

- ・「観る会」のため午後7時～9時の間はなるべく車の出入りはしないようご協力ください。
- ・車は、西向きにして駐車する。

【ほたるは、明るさを嫌います。】

出 口 (西側から)



夜店…美田商工会・前PTA役員様ご協力により
＜焼きそば・ポテトフライ・稲荷寿司・アイスcream・フランクフルト＞

お楽しみに！

＝編集後記＝

「うずまのほたる」発行は9回目を迎えることになりました。
本会の活動を県下に発信しました。
今年も多くのほたるが飛び交うことを願っています。

—うずまのほたる— 広報班

田波耕太郎・神山芳典・田中佐一・神山宜久・青木 誠・浮田雅子・小林まき
木村優子・増田真弓・五月女ナナ・秋本ひとみ・田中 國雄・佐藤茂男
田澤 均